

## ④8 苫小牧港複合一貫輸送ターミナル整備事業

受賞機関 国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

**キーワード** 耐震強化岸壁、荷捌き地の拡張、物流効率化

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

老朽化したふ頭の岸壁の改良とともに背後の荷捌き地、上屋の整備とを一体的に行う輸送ターミナル整備。既存の上屋を撤去し、荷役RORO船のシャーン輸送に係る荷役スペースをより広く確保するとともに船舶が係留していない時に車両走行の支障となる係留直柱を地下へ埋設化を図るなどの工夫により、荷役作業の効率化が図られており、成果が明確に現れている点が評価された。

### 1. はじめに

本事業は、苫小牧港西港区の南及び西ふ頭において、老朽化したの岸壁の改良と岸壁背後の荷捌き地の拡張を一体的に行うことでRORO船の荷役を効率化し、あわせて岸壁の耐震化により大規模地震発生時における港湾機能の維持を図るものである。

### 2. 事業の概要

事業箇所は、RORO船が国内8航路、週30便が就航し、苫小牧港発着のRORO船航路の約7割を占める幹線貨物輸送ネットワークの拠点となっている。

苫小牧港の建設当初に着手した当該施設は、建設から45年以上が経過し岸壁の老朽化が進行していたことに加えて、もともと一般貨物船用として整備された施設であったため、岸壁背後に上屋が建てられエプロン幅も狭く、荷役車両の低速走行や安全確認のための誘導員の配置が必要になるなど、荷役の安全性や効率性に課題を抱えていた。また、西港区は耐震強化岸壁が未整備であり、震災発生時の物流に支障を来す恐れがあった。



苫小牧港西港区商港区の様子

このため、本事業では、南ふ頭（-10m岸壁）1バースと西ふ頭（-9m岸壁）3バースを改良し、このうち西ふ頭の1バースは耐震強化岸壁として整備を行うとともに、港湾管理者と連携し、岸壁背後の既存上屋の撤去

及び代替となる上屋整備などにより荷捌き地の拡張し安全で円滑な荷役を可能とするとともに、災害時の緊急物資や幹線貨物の物流機能の確保を図った。

### 3. 事業の成果

岸壁改良及び荷捌き地の拡張により、RORO船への貨物の積み卸しの安全性及び効率性が向上し、RORO船用の岸壁としての機能が大きく向上した。また、こうした機能向上に加えて、各ふ頭の施工方法を工夫し工事による物流への影響を最小限にとどめたこともあり、苫小牧港で取り扱うRORO船の貨物量は、事業期間中も着実に増加し、整備前（平成22年）の貨物量約1,402万tに対し、令和元年の貨物量は約1,787万tと約3割増加している。さらに、平成30年に発生した「北海道胆振東部地震」では、平成25年に完成した西ふ頭の耐震強化岸壁は震災直後から北海道の幹線貨物輸送や災害支援活動に大きく貢献した。



完成後の西ふ頭でのRORO船による荷役の様子

### 4. おわりに

現在、苫小牧港にはRORO船のほか、フェリーやコンテナ船による定期航路が週約115便就航するなど、国内外の様々な貨物を取り扱っており、国内貨物輸送量は20年連続日本一を誇る。

このたびの事業を契機に官民連携によるさらなる物流効率化の取組が進められ、北海道のみならず我が国の産業・経済を支える北日本最大の物流拠点として役割を果たしていくことを期待する。

**賛助会員** みらい建設工業(株)、あおみ建設(株)、岩倉建設(株)、(株)山口工業所、菱中建設(株)、北興工業(株)、堀松建設工業(株)、酒井建設(株)、北日本港湾コンサルタント(株)